

令和8年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
1 教育課程 学習指導	<p>①すべての生徒のわかりやすさに配慮した授業改善を行い、生徒一人ひとりに応じた進路等の目標実現に定める、社会に開かれたカリキュラムの実現を目指す。</p> <p>②各教科・科目において、積極的に探究的な学びに取り組み、「総合的な探究の時間」の充実を図り、積み重ねることによって主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。</p>	<p>①研究授業の実施を中心とした、組織的な授業改善に積極的に取り組み、進路等の目標実現を目指し、すべての生徒が学習者として参加できる授業づくりを推進する。</p> <p>②学習活動を深化させ、生徒が主体的に課題を発見し、解決する力を育む。 ②インクルーシブ教育の理念を踏まえた授業改善を一層推進し、ICTの効果的な活用にも努める。</p>	<p>①教員相互の授業見学や研究授業の機会を増やし、全員が他の教員の授業を参観し、教科会等で協議をすることで各々の授業スキルを高める。</p> <p>②5つから7つの研究テーマを用意し、主体的・対話的で深い学びの実現や探究的な学びの実現を目指す。 ②大型電子黒板の効果的な活用法を職員間で共有し、共生の実現やユニバーサルデザイン化を推進する。</p>	<p>①授業見学の機会を効果的に設定することで、職員全員の授業参観に結び付いたか。 ①研究授業を実施できたか。 ①教科会等で研究協議を行うことが、より良い授業の実現に繋がったか。</p> <p>②「総合的な探究の時間」に課題解決能力の育成を目指す学習活動を組み込めたか。 ②大型電子黒板の活用に関わる取組を実践できたか。</p>						
2 生徒指導・ 支援	<p>①広く社会に貢献できる、規律ある生活習慣を身に付けた人材の育成に向けて、丁寧な生徒指導を行う。</p> <p>②生徒が主体的に学校行事や部活動に取り組むよう支援し、すべての生徒が活躍できるようにする。</p>	<p>①生徒一人ひとりの課題やニーズに応じた支援体制を整備し、外部機関との連携を活用した相談体制の充実を図る。また、社会人として求められる基本的な生活習慣や円滑な人間関係の築き方を習得できるよう指導を行う。</p> <p>②特別活動などを通じて、生徒の人間力を育み、達成感を得られる支援を行う。また、課題解決能力を高め、将来のキャリア形成へとつなげる。</p>	<p>①教育相談連絡会で気になる生徒情報を共有し、個に応じた支援を考えた SC・SSW や外部機関に繋いだり、ケース会議を行ったり、相談体制の充実を図る。 ①登下校指導や遅刻指導、服装指導等を通して、ルールやマナーを身に付けさせる。</p> <p>②文化祭（翔矢祭）において、生徒が主体的に活動し、達成感等が得られるよう支援し、地域の方にも満足してもらえるような行事とする。</p>	<p>①学年団、授業担当者を含め、個に応じた支援ができたか。支援が生徒の課題解決に繋がったか。 ①生徒自身がルールやマナーを守る生活習慣、言動を身に付けたと感じたか。</p> <p>②生徒の満足度、達成度が生徒アンケート等から見取ることができたか。 ②文化祭（翔矢祭）の外部からの入場者数が昨年度より増加したか。</p>						

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①「ちょっと背伸びの進路実現」を目指した将来の自己実現に向けた指導を行う。 ②生徒の希望進路の実現のため、進路支援体制の充実を図り、きめ細かな進路支援を行う。	①生徒の個性や進路意識の段階に応じたキャリア教育を推進し、くじけずに挑戦し続ける姿勢を育てる進路指導を実現する。 ②インクルーシブな視点で生徒一人ひとりの将来を見据え、個別最適な進路支援を行えるよう進路支援体制の充実を図る。	①個別指導と一斉指導を組み合わせ、効果的な指導を行う。個に応じた指導を積み重ねることなくくじけずに目標実現に向かう姿勢を育てる。 ②進路支援グループと学年、支援教育担当者、教科との連携を密にして、個別最適な進路支援を目指す。	①個別指導と一斉指導を組み合わせ、効果的な進路支援を行い、進路未決定者を10名以下に抑えることができたか。 ①個に応じた指導を積み重ねてくじけずに目標実現に向かう姿勢を育てることができたか。 ②進路支援グループと学年、支援教育担当者、教科との連携を密にして、個別最適な進路支援を行うことができたか。					
4	地域等との協働	①地域の期待に応えながら、地域の担い手として成長できるような人材の育成を目指す。 ②部活動・生徒会活動や、美術科の活動を発信し、地域との協働を図るとともに学校の魅力を発信する。	①生徒が地域活動に積極的に参加し、活力ある地域づくりへの貢献を通じて、よりよく生きるための社会性を育むことを目指す。 ②部活動、生徒会、美術科等の活動において地域と協働した活動の場を広げるとともに、学校の魅力を積極的に発信する。	①アンケートを行い、地域のニーズを整理して地域貢献を行い、生徒の社会性を育む。 ②「作品を日常生活の中に」をキーワードに、小・中学校などとそれぞれの作品を交換展示する地域美術館を企画する。また、地域の人々のための陶芸教室の作品展示場作りや小学校でのイラスト教室など、身近な地域貢献の機会を増やしていく。	①地域がどのような期待を本校にかけているかを校内で共有し、生徒が自ら参画し、課題解決した回数や地域の人々や生徒にとっての満足度をもって判断する。 ②地域貢献が本校の魅力として発信できたかを地域の人々や生徒にアンケートを行って達成状況を判断する。また、昨年以上にHPで魅力発信ができたか。					
5	学校管理 学校運営	①「共に学び共に育つ」共生社会の実現を目指す。 ②安全・安心で信頼できる学校づくりを進める。	①職員全員の視点を高め、インクルーシブな視点で個々の生徒の状況を捉え、人権に配慮した対応を適切に行う。 ②業務の効率化により働き方改革を推進するとともに、不祥事ゼロ達成に取り組む。 ③県立高校の役割を踏まえた防災体制の確立を図る。また、地域と連携した取組を推進する。	①特別募集生を含め、情報共有会議で職員全体に生徒の状況を周知する。 ①職員の人権研修会を行う。 ②セキュリティを確保しながら、DX化を推進する。 ②定期的な研修を継続し、不祥事ゼロを達成する。 ③地域と連携し、本校の役割を再確認してよりよい防災体制を確立する。	①生徒の状況を把握できたか。 ①研修の振り返りにより、職員が人権に配慮した教育活動在り方を再確認できたかを検証する。 ②働き方改革の理念に基づき、業務の効率化につながる仕組みを整備できたか。 ③事故防止研修を適切な時期に行い、不祥事ゼロを達成できたか。 ③地域と連携し、相互に防災体制作りができたか。					

